

荒尾干潟

(あらおひがた)

位置：北緯32度58分、東経130度25分／標高：0m／面積：754ha／湿地のタイプ：干潟／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：熊本県荒尾市／登録：2012年7月／国際登録基準：1、2、6／EAAFPネットワーク参加地

湿地のタイプ：干潟



夕暮れの荒尾干潟



ズグロカモメ



シギの群れ

湿地の概要：

有明海の中央部東側には、最大幅3.2km、長さ9.1km、面積約1,656ヘクタールと、単一干潟としては国内有数の広さを誇る。この広大な干潟の一部である荒尾干潟は、流入する大きな河川がなく、潮流によって土砂や貝殻が運ばれて堆積し、また、低潮線付近では砂が堆積し、州を形成する。

有明海の干潟は、ゴカイ類、貝類、小型の甲殻類や多くの渡り鳥など、多種多様な生きものが暮らす場であり、古くからノリの養殖やアサリ漁が営まれてきた。また、毎年夏期には地元荒尾市主催のマジャク(アナジャコ)釣り大会も開催され、900人を超える参加者が訪れて、干潟の恵みを堪能する。

荒尾干潟の豊かな生きもの：

荒尾干潟は、主に砂質の干潟で、歩いても沈みこむことはなく、同じ有明海でも佐賀県側の泥干潟とは性質が異なっている。

潮流の運ぶ土砂には有機物が豊富に含まれており、干出と水没が繰り返される中で激しく攪拌され、絶えず巻き上げられて海水と混じる。この豊富な有機物を含んだ海水は海藻や無数のプランクトンを養い、そして砂質を好むゴカイ類、貝類、小型の甲殻類などの底生生物がそれらを捕食し、さらにその底生生物を餌にする水鳥、浅瀬を利用する魚類など多種多様な生きものが生息し、荒尾に暮らす人々

から「宝の海」と呼ばれ、古くからアサリ漁やノリの養殖が盛んに営まれてきた。

渡り鳥の有数の飛来地：

シギ・チドリ類は、秋から春にかけて荒尾干潟に飛来し、中継地もしくは越冬地としてこの干潟に滞在する。秋季にはシロチドリ、キアシシギ、ダイゼン、トウネン、ソリハシシギ、メダイチドリなど、冬季にはハマシギ、シロチドリなど、そして春季にはオオソリハシシギ、ダイゼン、キアシシギなどが多く見られる。2020年に環境省が実施したモニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査(春期)では、荒尾干潟のある荒尾海岸で2,963羽のシギ・チドリ類の飛来が観察され、これは全国3位の羽数だった。

そのほか、環境省のレッドリストで絶滅危惧ⅠB類に指定されているクロツラヘラサギや、同じくⅡ類のツクシガモ、ズグロカモメなど、多くの希少な渡り性水鳥にとっても、大切な越冬地となっている。

干潟の保全活動：

ノリの養殖やアサリ漁などが現在も盛んであるが、近年、水質の悪化による赤潮などの発生や、資源の減少などで漁獲量が減少しているため、漁業組合が中心となって干潟の耕作や砂を撒くなどの再生事業を行っている。こうしたアサリの育成のために干潟を耕す作業が生きものを増やし、また育成するアサリの稚貝は荒尾産に限るなど、干潟と共生する漁業



探鳥会

が営まれている。

また、日本野鳥の会熊本県支部は定期的な海岸清掃と探鳥会の開催など、有明海の自然を守っていくための活動を行っている。このほか、毎年8月には有明海沿岸4県による有明海一斉海岸清掃も実施されている。

2019年8月に荒尾干潟水鳥・湿地センターが開館し、荒尾干潟の保全や賢明な利活用を推進する拠点施設となっている。

●関係自治体

荒尾市役所 Tel: 0968-63-1386

